

2023 フクシマ連帯キャラバンに参加して

関東地方横浜支部 青年副部長
鶴岡 勇輔

お疲れ様です。私はこの度、2023 フクシマ連帯キャラバンに 3/17～3/21 の全行程を初参加して来ました。この問題で東北の地を踏んだのは 19 年の東北の青対に続き、二度目となります。

まず初めに、キャラバンを受け入れて下さった東北地方の皆様、細部までの心配り、本当にありがとうございました。長年全国各地で縁を深めた仲間達が先頭に立って運動を作り上げる様、そのバトンを受継ごうと奮起する様、その仲間を支えようと裏方に回った仲間達、この運動の全てがとても勉強に、また、良い刺激になりました。一言では片付けられない位、「凄い」の一言でした。そんな仲間を支えられながらこのキャラバン隊の一員として、やり遂げた事を本当に嬉しく思います。

四年ぶりの東北の地、以前とは違う風景が広がってました。今回も同じくフィールドワークで訪れた夜ノ森や双葉町、当時はバリケードが張り巡らされ、道中には汚染土を入れた黒いフレコンバッグがそこら中にありました。また、帰還困難区域への制限が大変厳しくありましたが、今はバリケードも無ければ警備員も居ませんでした。

あの当時抱いた「この線の奥と手前、何が違うの?」「線の手前に居るからと、監視する為に立ってる警備員、子育てをしてる若い家族、本当に被爆は大丈夫?」。今日、制限は解除されてバリケードは撤去されてますが、フィールドワーク時に歩いている人を見る機会も、すれ違う車も皆無でした。

双葉町の駅前も綺麗に作り直した駅から、四年の月日の間に隣、向かい側に綺麗な建物が建ってました。

その後、双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れました。その中に同じ津波の被害を受けた地域の航空写真が展示されてましたが、12 年の月日で町は活気を取り戻しつつある写真でした。

双葉町も津波の被害に遇った地域です。他県の被災地と福島県の被災地、何が違うと思いますか?

人が住めないと、居ないと、復興は進まない。綺麗な建物が建てば復興ではない。帰る家がまともな状態で無ければ帰る事も出来ない。原発労働者の労災認定の被爆基準の四倍で、勝手に規制を緩和して「帰っていいですよ」と言われて誰が帰れますか?

本当の意味での「復興」とは? 今回それを深く胸に刻みました。

この想いを、世論にうねりが出来る位一人一人が当事者意識を持てる様に、私は関東は横浜の地で声を上げて行きたいと思います。

シュプレヒコールを自分達で考えよう、との取組で出たこの言葉で結びとしたいと思います。「福島を教訓を忘れるな」